

平和に関する指導実践記録

第5学年 1・2組	指導者	稲葉 博司 松永 悠	
教科・領域	学級活動(2)	単元・題材	門司大空襲
目 標 または ねらい		使用教材 ・ 資料 等	
・門司空襲について認識を新たにするとともに、資料「命をこがす炎」を通して戦争の悲惨さや命の尊さを感じ取らせ、平和を願う心と態度を育てる。		命をこがす炎(罹災児童作文) 命をこがす炎(自作プレゼン)	
本時の学習 (実践日 平成27年7月13日 月曜日 第5,6校時)			
学 習 活 動		児童の主な反応・様子	
1. 戦争や門司空襲について知っていることを発表する。		○戦争や門司空襲について知っていることを自由に発言した。 ・戦争でたくさんの人が苦しんだ。 ・門司港の町にも空襲があった。	
2. プレゼンを見て、門司空襲について知る。 ・門司港はたくさん空襲を受けた。 ・空襲にもいろいろな種類がある。 ・戦争が終わっても掃海作業は続いた。		○門司の町を襲った空襲はどんなものだったかを確認した。 ・私たちの町が何回も空襲され、たくさんの被害があったんだ。 ・関門海峡には、たくさんの機雷が投下された。	
3. 門司港空襲体験記を読んで、戦争について考える。 ・空襲の恐ろしさを読み取り発表する。 ・子どもを守ろうとした母親の様子から子どもを思う親の愛情を考える。		○空襲の凄まじさが分かるところを発表し、人々の気持ちを考える。 ・空襲の恐ろしさ分かるところを発表し、その様子を想像していった。 ・母親の姿から、一人一人がかけがえのない存在であり、戦争はその大切な命を奪ってしまうことに気付いた。	
4. 世界に目を向けると、まだまだ戦争や紛争が続いていることを知る。		○戦争・紛争に関するニュースを見た経験を出し合う。 ・今も紛争などでたくさんの方が傷ついている。	
5. 感想を書く。		○自分の感想を書く。	
単 元 を 終 え て の 考 察			
<p>平和な世の中に生きている私達にとって、戦争を自分ごととしては考えにくいですが、今回、自分達の住む町、門司港を襲った空襲について学習したこと、また、自分達とあまり年が変わらない当時の中学生が書いた体験記で学習したことで、少しは戦争を自分ごととして考えることができた。</p> <p>その戦争や紛争が、世界ではまだ続いていることから、平和な世の中をつくっていくことの大切さを感じることができた。</p>			